

よい豚のもとをたどればよい種豚

国産純粋種豚改良協議会だより



豚も人間も・・・
暑熱対策、お願いします!!

第 10 号 2019. 8. 8 発行

養豚を取りまく状況について、疾病のそれは国内外で依然油断を許さない状況が続いています。さらに、季節は夏になり、暑熱対策も重要となってきます。しっかりとした飼養環境を整えて防疫に努めましょう。

新会員の紹介です!!



2019 年 7 月、新たに 1 つの都道府県が正式に会員として入会して頂ける事になりました。ご紹介いたします。

・ 群馬県畜産試験場 様

群馬県養豚協会 種豚生産者部会様に続き、正会員加入です。

群馬県は県の農業産出額でなんと、豚が 1 位です。全体の 17.7%を占めています。(平成 31 年 4 月 群馬県農政部データより)是非、県としての養豚への取り組み等ご指導頂きたいと思います!!

どうぞ国産純粋種豚改良協議会へ新たな気合いをよろしくお願いいたします!!

国産純粋種豚改良協議会の現在の会員数は、生産者会員が 23 名、団体及び試験研究機関会員が当協会含め 15 名です。オブザーバー会員は 5 名となっております。正会員への変更手続き、新規入会をお待ちしています!!

申し訳ありません!!



ひきつづき・・・

～お詫び・国産純粋種豚改良協議会専用データ管理システム 改修について～

会員・オブザーバーの皆様には昨年末にお願いをしまして、繁殖及び産肉データについて、協議会専用データ管理システムに入力等していただいたところです。

大変申し訳ありません、遺伝的能力評価を抽出するプログラムに一部不具合等が有ることが判明し、現在その改修及び構築の作業を行っております。

こちらの作業が終わるまで、協議会内の遺伝的能力評価及びランキングの公表ができない状態となっており、皆様には大変なご迷惑をおかけしております。

只今、急ピッチで作業を進めております。もうしばらくお時間を頂きたく、何卒ご了承のほどよろしくお願いいたします。

中国及びベトナム・北朝鮮に拡散した アフリカ豚コレラ及び 東海から北陸地域まで広がっている 豚コレラの防疫強化を！！

ASF は非常に厄介な病気で、国内への侵入は全力を挙げて阻止する
必要があります。また、豚コレラの拡散防止のため衛生対策を徹底しましょう

ASF ウイルスは中国及びベトナム・北朝鮮と拡散しており、いつ日本に侵入してもおかしくない
状況です。国に対し、水際防疫の強化を要請していますが、国内養豚農場では防疫レベルを最高
レベルに引き上げ、防疫強化をすぐに実施し国内への侵入を全力で阻止しましょう。

また、続発している豚コレラについても養豚経営の存続にも関わる疾病です。これ以上拡散し
ないよう農場の衛生対策を今一度確認いただき侵入防止に努めましょう。



国産純粋種豚改良協議会 2019 年度総会について

今年度の総会ですが、秋口以降の開催を予定しております。日程及び詳細が確定しましたら改めて
ご連絡させていただきます。沢山の会員の皆様のご出席をお待ちしております。



第1回 豚改良増殖推進検討委員会 開催

本年度は5年に一度の家畜改良増殖目標の見直しの年です。7月12日(金)、第1回の検討委員会が農水省
にて開催されました。国産純粋種豚改良協議会メンバーからは学識経験者でご指導頂いております、東北大
学大学院の鈴木啓一教授、会員である農研機構の石井家畜ゲノムユニット長、家畜改良センター茨城牧場の
新場長、千葉県畜産総合研究センターの鈴木室長、有限会社 星種豚場の星正美氏、事務局を担当させて頂
いている当協会専務理事の小磯孝が委員委嘱を受け、出席しました。今回は農水省から現在の養豚をめぐる
状況の説明、出席委員からの改正に向けての意見発表と意見交換がありました。

事務局では次期目標に盛り込みたいこと等、皆様から、豚改良増殖目標に対するご意見を募集致します。
メール・FAX等にて事務局まで是非、お送りください。よろしくお願いいたします!!



令和元年度 豚の新育種技術に関する研究会において国産純粋種豚改良協議会
が紹介されました。

7月2・3日、茨城県つくば市において、令和元年度 豚の新育種技術に関する研究会(第36回豚の閉
鎖群育種試験に関する検討会)が開催されました。全国から各都道府県の担当者、民間生産者等が集まり、

2日間に渡り各都道府県での系統造成への取り組みの発表がありました。そのなかで、繁殖成績についてはある程度の結果が出ているものの、肢蹄の悪化が問題点となっているという意見も多く聞かれ、繁殖成績、特徴ある肉質を維持しつつ、その改良に早急に取り組んでいくべき課題提案もありました。

また、畜産GAP、疫学的去勢の研究調査についての発表のほか、独立行政法人家畜改良センターから国産純粋種豚改良協議会について紹介と取り組みについての発表を行いました。会議に出席されていた都道府県のなかにはまだ、協議会に参加していないところもありますので、是非参加を検討して頂きたいと思います。日本全体で純粋種豚のレベルアップと維持を図りましょう!!



東京都立瑞穂農芸高等学校へ種豚登録の出張授業に行ってきました。

一般社団法人日本養豚協会では毎年、瑞穂町にある東京都立瑞穂農芸高等学校より依頼を受け、種豚登録の出張授業を行っています。畜産科学科で養豚を専攻している2・3年生を対象とし、なぜ、血統管理が重要であるか、についての講義と、実際に一腹記録・子豚登記・種豚登録の実技を行います。今年は7月11日(木)、事務局から3名行って参りました。参加者は担当教諭と総勢20数名の学生ですが皆、非常に意欲にあふれており、私達も訪問の度に精進せねばと反省しきりです。成績が悪いことについてはとことんその原因を追究し、今度はこういうタイプの種豚がほしい等生産者顔負けの議論あり、家畜というスタンスでありながらも大切に飼養している姿を見ると、我が国の純粋種豚改良の場に、今のそのままの意欲で多くの学生が今後将来携わって頂けるような体制づくりも重要だと痛感します。

一般社団法人日本養豚協会では、こういった学校だけでなく、ご要望に応じて種豚登録を基本とした一代雑種豚の選育のための講義なども実施しています。お気軽にお問い合わせくださいませ。



第3回 国産純粋種豚改良協議会 銘柄豚認定検討委員会 開催

6月24日(月)、第3回 国産純粋種豚改良協議会 銘柄豚認定検討委員会を開催しました。今年度総会に向けて国産純粋種豚改良協議会銘柄豚認定に関する規則、サポーター会員についての詳細等案を策定致しました。認定委員の皆様には総会開催までに書式などの案作成を依頼しています!!

少しでも早く本活動に着手できるよう、認定委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



事務局からのお知らせ

「国産純粋種豚改良協議会」は
平成28年3月31日、オールジャパンでの種豚改良を目指して発足しました。只今、会員絶賛募集中です!!

★令和元年度 種豚導入補助事業 ご案内

事務局である一般社団法人 日本養豚協会では令和元年度も種豚導入補助事業の事業実施主体となりました。国産純粋種豚の能力底上げが目標の事業です。平成30年度も同様の事業があり、会員及びオブザーバーの方で事業参加されて、積極的に改良のための導入を行って頂きました。本事業は単年度事業ですが、平成26年度から

続いている事業で、生産者間血縁構築にも有効に活用されています。せっかくの補助事業です。協議会の目標達成の為に是非、有効活用しましょう。お問い合わせは事務局の湯浅までお願いします。

★協議会内部での種豚交流について

改良のスピードアップの、ひとつの指標となる遺伝的能力評価精度向上を図るためには、協議会員間での血縁構築が重要となってきます。是非、会員間で種豚交流を実施しましょう。御連絡いただければ会員にお知らせいたしますので事務局までお願いします。

★会員、絶賛募集中!!

より多くの種豚生産者に参加していただくことで、国産純粋種豚改良協議会の活動が盛り上がり、かつ、データがたくさん集まり、改良のスピードアップも狙えます。是非、入会をよろしくお願いいたします。協議会についてのお問い合わせもお待ちしております。

★産肉検定・豚人工授精師資格取得等について

産肉形質改良のための素材となるデータ測定についても、積極的に実施をお願いしたいところですが測定機器が無いなどのお悩みについて、協議会一丸となって取り組んで行きたいと思います。また、最近非常に問合せが増えております、豚人工授精師資格取得や人工授精の講習会等、皆さんで情報交換を行いたいと思います。是非、事務局へお問い合わせ下さい。全体で対策を検討したいと思います。

★国産純粋種豚改良協議会だより について

普段なかなか集まることのできない、会員及びオブザーバーの交流の場としても是非ご活用ください。掲載希望記事や掲載希望コーナーなどの御提案をお待ちしています。事務局までどんどんお寄せ下さい。また、改良に関する質問なども受け付けております。

(例:会員及びオブザーバーの紹介コーナー、会員及びオブザーバーに関するトピックコーナーなど)

・・・事務局こぼれ話 EU 放浪記 その1(ドイツ編)



グーテン ターク 皆様こんにちは。種豚関係とは結び付きませんが、先日、豚肉輸出事業の関係でEUへ出張をしてきました。現在、日本からEUへは豚肉輸出ができませんが、輸出許可が前向きに進んでいる経緯があることから、ドイツ、ベルギー、デンマークの3カ国を視察しました。視察先は、スーパー、精肉店、レストラン、卸業者、関係団体等です。

まず、EU全体について豚に関する要点を説明します。EUは全28カ国の連合国で、養豚産業も盛んなことから、現在は世界最大の豚肉輸出国となっています。1人当たりの豚肉消費量は31.7kgと日本の2.5倍以上であり、肉食文化です。枝肉価格は平均290円/kg、肥育豚生産費は枝肉1kg当たり188円と日本に比べると2.3~2.6倍の安い経費となっています。生産現場における課題等では、AW、環境問題、後継者問題(人件費)があり、規模拡大にハードルが高く、土地があるドイツやスペイン、ポーランドに子豚を販売し飼育するケースが増えております。意外な点は、まだ小規模な家族養豚も多く、EUの平均飼養頭数は67頭と少ない頭数でした。しかし、上記での問題もある為、小規模養豚戸数は減少傾向にあり、逆に企業養豚戸数は横ばいにあります。EU全土が環境問題に日々厳しくなっており、また動物愛護団体も多く、愛護団体が農場に侵入し団体活

動をしたとしても、逮捕（不法侵入罪）されない事例もあることから、日本よりも厳しい環境とも思えます。

本号ではドイツについての視察情報を掲載いたしたいと思います。

ドイツはEU経済の主要国でもり、例えば車を中心とした工業が盛んであり、平地が多いことから農業分野でも経済の大きな要となっています。養豚産業においては飼養頭数がEUで最も多い国となっており、デンマークから子豚が運ばれ肥育育成の生産者も多いです。緯度は北海道より北に位置していますが、渡航中は熱波到来により毎日38度以上の酷暑となり、正直過酷でした。

豚肉については、各お店で全体的に加工品が多く、ドイツ人の豚肉消費量は加工品率が高いと言われています。火を使った料理もあまりしない国で、味はハム等もそうですが全体的に「しょっぱい」と思いました。豚肉は脂身がなく赤身重視で、脂分は不健康扱いでした。しかし、豚の背脂の塩付け売っている為全て加工品次第なのかと思うところもあります。豚の品種はハイブリットが多く、日本のレストランシェフ曰くドイツの肉は固いと不満を持っていました。よい点では、マイスター制度（高等職業能力資格認定制度）があり、工業部門から精肉まで様々な部門で職人魂のある方が働いていました。その為、専門精肉店も多く、店は活気があり、精肉や味付け肉、多種の加工品についてお客さんとコミュニケーションを取りながら接している姿に感銘を受けました。日本でも豚肉を消費者に力説できる精肉担当者が必要と強く感じました。陳列されている豚肉に種類は主に3種類で、国産肉ロース（70円/g）、オーガニックロース（350円/g）、イベリコ豚ロース（490円/g）で、国産以外の豚肉は高い価格設定、国産豚肉の味は非常に淡泊で、繊維は少し硬く歯に着く印象がありました。

ドイツの旅の印象は、EU初日でもあり、時差ぼけ、サマータイム（日没21:30）、熱波の酷暑の印象が強かったです。今回はフランクフルトを訪問しましたが、大きな市毎に役割のある国ですので、ドイツ全体も視察したいと思いました。

（事務局若み記）



街の精肉屋さん



スーパーの加工品売り場(これで半分)



オーガニック豚肉



国産純粋種豚改良協議会 事務局 一般社団法人 日本養豚協会 担当:小磯・湯浅・神長

〒1510053 東京都渋谷区代々木 2-27-15 高栄ビル 2 階

電話:03-3370-5473 FAX:03-3370-7937 E-Mail:n.yuasa@pig-pins.com

